

IHE 内視鏡 TF VolII,II,III におけるパブリックコメントの対応について

2010/07/21

日本 IHE 協会 内視鏡委員会

パブリックコメントの結果とその対応を以下に示す。

番号	パブリックコメント	方向付け
1	トランザクションのオプションリティを単純にとらえて EIC のみ作ろうと考えた場合、EIC に対するインプットが無くてもよいように読める。意図するところが実装ロードマップの優先順位によるオプションリティであって、EIC のみ作る場合は Endo5 が必要になるということなら、その旨説明してくれないと、このような勘違いが起きると思う。	修正する。オプションリティの定義を O(オプション)としていたものを C(条件付)と変更し、Appendix A の第1段階の実装時には必要ではないが、第2段階の実装時には必要になる旨の説明を追加した。
2	Execution Information Creator からそのステータスを EOF に送るのに、Endo6 を使っている。Endo6 は MDM メッセージでそのステータスを知らせるものであるが、一方で EIC は実施情報を送るのに Endo4 により OMI メッセージを送る。ステータスを知らせるためだけにわざわざ MDM メッセージを作成するくらいなら、実施情報を送るのにどのみち OMI メッセージは作るのだから、OMI メッセージで EOF にステータスを知らせることにすれば、EIC も2種類もメッセージをサポートしなくてすみ負担が少なくなる。	コメントで挙げられた理由に加えて、レポート文書を持たない EIC が MDM メッセージの必須セグメントである TXA セグメントを生成する事が困難であることから、コメントの方法を採用し、EIC から EOF にステータスを送るのに Endo4 を使用することとする。

以上